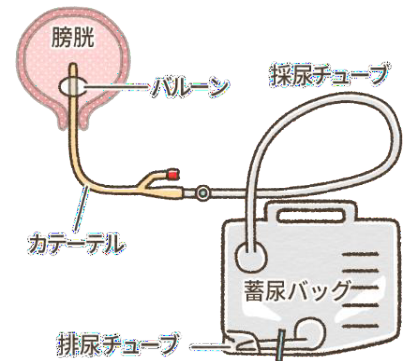


【説明】

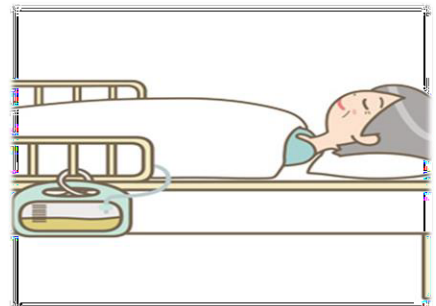
によろどう
尿道カテーテルとは、尿を排出させるため、尿道から膀胱へ挿入するチューブのことです。持続的に尿を排出させる場合、チューブ先端のバルーンという小さな風船を膀胱内で膨らませ、チューブが自然に抜けないように固定し、挿入したままの状態にします。この処置を によろどう尿道カテーテル留置といいます。



【必要性】

によろどう
尿道カテーテル留置は、一般に以下の目的で行います。

1. 自力で排尿することができないとき
2. 尿量を正確に測定する必要があるとき



【方法】

尿道口からチューブを挿入し、チューブ先端を膀胱まで進めます。チューブ先端が膀胱に到達したら、バルーンを蒸留水で膨らませてチューブを固定します。

【合併症】

尿道カテーテル留置は安全性の高い手技ですが、以下のような合併症 (がっぺいしょう併発症) が起きる可能性があり、まれに がっぺいしょう合併症に対する治療が必要になることもあります。

これらの がっぺいしょう合併症が起きた場合には、最善の処置を行います。その際の医療行為は通常の保険診療となり、費用のご負担が生じます。

1. にようろかんせんしょう尿路感染症: チューブを挿入した部位から細菌が入り感染症を起こすことがあります。
2. にようどうそんしょう尿道損傷: チューブの挿入が難しい場合や、チューブが無理に引っ張られるなどした場合、尿道を損傷して、出血や炎症が起こることがあります。
3. 膀胱刺激症状: チューブの刺激によって下腹部の張りや痛み、排尿したい感覚が続いてしまうなどの症状が出る場合があります。



4. その他、尿漏れ、膀胱結石^{ぼうこうけっせき}、チューブが当たっている部位やテープ固定部に皮膚障害などが発生することがあります。

【特別な注意が必要な場合】

下記に該当する患者さんは担当医師や担当看護師にお申し出ください。

◎消毒薬(アルコールなど)やゴム手袋にアレルギーをお持ちの方

◎その他、手技に関してご希望、ご不安な点のある方